

第 44 回懇談会での主な意見と対応

意見	委員名	頁行	計画への対応(下線部を追加)
毎年のように発生する、浸水被害、土砂災害に対して、時間管理の概念も踏まえてハード対策を迅速に実施すべき	森地委員 松原委員 藤井座長	P4 22 行	第1章2 国土強靱化を推進する上での基本的な方針 ⑨ 人口の減少等に起因する国民の需要の変化、 <u>気候変動等による気象の変化、社会資本の老朽化等をふまえるとともに、強靱化確保の遅延による被害拡大を見据えた時間管理概念</u> や、財政資金の効率的な使用による施策の持続的な実施に配慮して、施策の重点化を図ること。
		P43 3 行	第 4 章3 プログラムの推進と重点化 <u>これらの取組の推進を図るプログラムの中で、特に緊急に実施すべき施策については、達成目標、実施内容、事業費等を明示した3か年の緊急対策を定めて、速やかに実施するものとする。</u>
自由化(民営化)と強靱化の兼ね合いについての課題	柏木委員 森地委員 藤井座長	P6 16 行	第1章4 特に配慮すべき事項 平時における効率性・ <u>合理性</u> の確保という視点に加えて <u>だけではなく</u> 、各種のリスクの存在並びに及びそれらを見据えた災害対応力の向上及び長期的な効率性・合理性の確保を意図した総合的な視点を持って取り組むことが重要である。
景観なども含めて事前復興の観点に盛り込むことを考えてほしい	中静委員	P34 28 行	第 3 章 2(12)土地利用(国土利用) 万一の際、現在よりも良い形で復興させていくことができるよう、地域の災害リスクや産業構造の将来像、 <u>歴史・景観など地域固有の資源の在り方</u> 等を踏まえた復興ビジョン等について平時から検討を進める。
事前復興準備は市町村単位ではなく、それより大きな単位で考えたほうが良い	森地委員	P35 2 行	第 3 章 2(12)土地利用(国土利用) その際、復興に関する体制や手順の検討、災害が発生した際の復興課題を事前に把握する等の取組を <u>広域的な観点も踏まえて</u> 推進し、復興まちづくりの事前の準備について地方公共団体への啓発を継続するとともに…
進捗管理のための定量的指標について、被害想定の定量的側面を踏まえた上での指標についても検討してほしい	尾崎委員 (代理)	P41 17 行	第 4 章 2 プログラムの推進と重点化 プログラムの進捗状況を可能な限り定量的に把握できるよう、具体的な数値指標を <u>必要に応じて想定リスクの規模、対象範囲等を踏まえつつ</u> 設定するとともに、プログラムの進捗状況等を踏まえ、必要に応じてこれを継続的に見直すことにする。
支援物資について、大規模災害の被災想定を踏まえた供給量が足りているのかどうか	森地委員	P29 27 行	第 3 章 2(8)交通・物流 また、 <u>南海トラフ地震等の</u> 事態に対応した必要な人員・物資等 <u>の調達体制を構築するとともに</u> 、ラストマイルも含めて円滑に被災地に供給できるよう、…